

職員の皆さんへ

本日は、平戸市が合併してから10周年の記念すべき節目の日に当たり、すべての市民皆様とともに盛大に祝意を表す日を迎えることになりました。

この10年を振り返ります時に、合併後直ちに「財政危機宣言」が発せられ、給与カットや定員適正化計画など痛みをともなう改革に着手してきました。さらに私が市長に就任してから、副市長一人制や部制導入など抜本的な機構改革に積極的に取り組むことで組織のスリム化を図るとともに、思い切った繰り上げ償還を粘り強く実施したことによって、本市の財政状況の改善と市民の利益増進は飛躍的な成果をもたらすに至りました。

具体的には平戸オランダ商館の復元、鄭成功記念館の新築、消防庁舎の完成とこれに伴うデジタル通信機器の設置、それに未来創造館 COLAS 平戸、ふれ愛センター度島、平戸市観光交通ターミナルなど大型事業を次々と完成に導き、それによる多額の予算を投入しながらも財政が健全化していることは、職員の皆さんのこうした痛みを伴う改革へ向けての市民最優先で献身的に取り組む姿勢があったからこそであり、改めて最大の称賛を送りたいと思います。

特に、絶えず公平公正さと向き合い自らにも厳しく業務を遂行してきた税務課職員、現場目線を忘れることなく市民に寄り添ってきた市民福祉部や病院関係職員、昼夜をいとわず安心安全で快適なまちづくりに汗を流してきた消防職員および建設部や水道局など危機管理担当職員、産地支援とともに付加価値戦略を大胆に進めることで産業活性化や雇用確保そして農村や漁村の暮らしづくりにも熱心に取り組んできた産業振興部職員および農業委員会職員、市民の財産である子どもたちの教育・保育環境や世代を超えた文化事業などで細やかな気配りと積極果敢な情報発信に努めてきた教育委員会並びに保育関係、及び文化交流課職員、民間企業や団体・大学などと綿密な連携を図り本市の魅力を全国に発信し続けまた受け入れてきた観光関係職員、乏しい自主財源や脆弱な財政構造にもかかわらず長期的な展望に立ちながら各部との調整を行うことで健全化を実現してきた企画財政や行革担当そして監査事務局及び会計課の職員、市民と職員の間立ちコミュニティ事業や福利厚生などに尽力してきた総務部職員、そして全ての職員と二元代表制を司る議会との円滑な運営に頑張ってきた議会事務局職員、その他様々な市民ニーズに応えながら、それぞれの専門的な分野で職務を遂行してきた選管や各支所、出張所の職員各位におかれては、この10年間の営みを振り返るときに等しく感慨深いものを抱いておられることと思います。

今や平戸市は皆さんのご努力の甲斐あって、県下でも有数の全国ブランド都市として位置付けられ、多くの平戸ファンを確保するに至っています。「歴史」「恵み」「祈り」をキーワードに進めてきたあらゆるまちづくりは加速度的にその価値を高めながら、多くの賛同者を巻き込み市内外の強固なネットワークを基盤としてなお一層の発展の可能性を膨らませています。

改めて申し上げます。本当にこの10年間お疲れ様でした。

その一方で、今日の10年の節目は、また次なる10年先へのスタートでもあります。私たちは決してこの歩みを緩めるわけにはいかないのです。

迫りくる人口減少や激化する地域間競争の波は否応なく平戸市にも襲い掛かりますし、これを向かい打つ強靱な連携を市民とともに構築しなければなりません。そしてそのための改革も待たなすです。PDCAサイクルと呼ばれる「計画」「行動」「検証」「実践」の繰り返し作業は終わることなく展開され、さらに新しい取り組みや挑戦が待っているのです。

先の9月議会一般質問で私は「20年先の平戸市像」について答弁する機会があり大きく三つの柱でその将来像を描きました。

一つに、「これまで各産業で頑張ってきた先輩方の後を受けて、次の波（流行）やトレンド（潮流）を創るような勢いのある世代が中心となる産業クラスターの形成」です。具体的には、農業・漁業・商業・観光業において、これまでの価値からステップアップし、次の時代にフィットした新たな産業として相互に連携し、ICTなどを駆使した近代化や省力化、そして躍動感ある活性化を達成する平戸になることを思い描いています。

二つに、「子どもを中心に社会全体が支えあい、高齢者の知恵と経験を頼りに寄り添う世代間交流が実現するまち」の形成です。例えば「子育てをするなら平戸」を合言葉に全国から集まってくるような笑顔溢れる街として、世代間が知恵と優しさを共有できる地域の連携を目指し、そのための新しい雇用もきめ細やかに創出し躍動する平戸になることを思い描いています。

三つに、「豊かな文化で地域や国境を越えて集う賑わいとエキサイティングな出会い溢れる街」の形成です。平戸城やオランダ商館、未来創造館は単なる建物ではなく、出会いの空間であり、そこできっかけとなり思いを同じくする者同士の絆やチャンス求めて多くの人々が世代や地域・国境を超えて集まる場所になりたい。常に街角から音楽が流れ、笑いがこぼれ、明日に希望がもてる雰囲気にも包まれ、若者が住み続けたい平戸になることを思い描いています。

ここに掲げた夢は必ず実現できると確信しています。これまで積み上げてきた確かな実績と信頼、そして果敢に挑んできたやる気や使命感をさらに増幅し、ともに強固なスクラムを互いに組んで、ラグビーワールドカップ対南アフリカ戦において奇跡の勝利をもたらした日本チームのように、市民のみならず全国の平戸ファンを歓喜に包み込もうではありませんか。

本日、市町村合併10周年の日にあたり、今後における私自身の決意表明も含め、職員皆さんへのご努力に期待を込めて訓示といたします。

平成27年10月1日

平戸市長 黒田成彦